

○議長（高橋正博君）

教育民生常任委員長 木場隆司君。

○教育民生常任委員長（木場隆司君）

おはようございます。

閉会中の令和4年11月30日に教育民生常任委員会を開催しましたので、その内容を報告いたします。

まず、健康福祉課から3点。

1点目、特定不妊治療費助成事業について、不妊治療の保険適用化に伴い、本年4月以降に保険適用となった不妊治療に係る医療費および保険外診療の治療費について助成を実施する。

助成対象は、医師の診断に基づき実施される不妊治療であるもの。また、男性不妊治療および医療機関までの往復交通費も対象とする。助成金額の上限は、治療ステージにより変わるが、保険診療または先進医療の併用の場合は7万5千円か15万円。保険外診療の場合はその倍とすると説明がありました。

2点目、新型コロナワクチンの個別接種促進を実施する町内の医療機関に対し、香川県新型コロナウイルス感染症緊急包括支援助成金（補助金）の交付要件に満たない部分に対して、接種一回当たり1000円の補助金の交付を実施する。財源は、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用するとの説明がありました。

3点目、出産・子育て応援交付金について、国の補正予算の事業であるが、妊娠期から出産・子育てまで一貫して身近で相談に応じ、さまざまなニーズに即した必要な支援をつなぐ伴走型の相談支援を充実し、経済的支援（計10万円相当）を一体として実施する事業内容である。

妊娠届出時や出生届出後の面談実施後に応援ギフトとして各5万円相当を支援する。財源は国3分の2、県6分の1、町6分の1との説明がありました。

次に、住民環境課から2点。

1点目、土庄町一般廃棄物最終処分場について、これまで報告した8カ所の候補地についてメリット・デメリットの説明があり、検討の結果、このうち4カ所に候補地を絞り、調査を進め適地を絞っていきたいと考えているとの説明がありました。

委員から「灘山の土地開発公社の用地も候補地として検討していくのか」との質問に、現在のところのり面是正等についてのめどが立っていない状況なので、候補地として今回入れていないと回答があり、委員から「ここから4カ所を中長期的に条件面や地元交渉などを検討することだが、それだけ時間がかかった部分は、そのまま島外搬出を続けていく考えなのか」との質問に、「処分場の建設となると相当の期間がかかると思われるので、経過措置を含めてほかの

手段を考える必要がある。その一つとして島外搬出を延長することも考えなければならぬ」との回答があり、また、「小豆島町との協議はどうなっているのか」の質問に、「まだ正式には協議していない」との回答がありました。

2点目、マイナンバーカードの取得状況と普及の取り組み、および安全性についての説明がありました。また、12月議会で若年層のマイナンバーカードの普及促進と子育て世帯への支援のため、マイナンバーカードを持つ子どもを対象に給付金を支給する予算を計上予定であるとの説明がありました。

委員からマイナンバーカードを持っているか、いないかで差別を受けるようなことはやめるべき、すべての子どもに支給すべきとの意見がありました。

次に、教育総務課から2点報告がありました。

1点目、2学期から土庄中学校、豊島小・中学校でAIドリルを試験導入している。

学校では、授業の合間や自主学習の時間にタブレットを使ってドリルの学習を行い、家庭では、希望者について学校でドリルをダウンロードして、家に持ち帰って行っているとの報告がありました。

委員から「今の段階で、家で通信することはできないのか」との質問に、来年度に通信の方法を計画しているとの回答がありました。

2点目、子ども子育て支援交付金の返還について報告があり、放課後児童クラブ事業の補助金について、会計検査院から全国的に指摘された例が、国から通知があり、利用人数が少ない土曜日に土庄町の放課後児童クラブの教室の子どもを系列の小豆島町の教室に連れて行き、併せて実施した場合は補助の対象に該当しないとのことで、平成29年、30年、令和元年の3年間で国、県合わせて約700万円返還するようになるとの説明がありました。

以上で、閉会中に開催された教育民生常任委員会の報告を終わります。